

北京の空に PM2.5 は漂ったか

佐藤俊哉(京都大学医療統計)

6日(土) 会議のはじまり

第4回 East Asia Regional Biometric Conference (EAR-BC) 2013 に出席のため、昨日から寒水先生、田中司朗先生とともに北京入り。昨日は関空からの便が2時間ほど遅れたもののぶじ北京に到着した。

今朝は7時に目覚ましで起き、支度して1階のレストランへ。時差は1時間だけだし、7時起きといっても日本では8時なので気が楽である。朝食は中華と洋食のbuffet、中国の人たちはみな中華を食べているので中華好きのわたしは、『今日のお昼もバンケットも中華だよな』と思いながらもついつい中華に手を出してしまう。ところがお味はいまいちで、なんだかなあ、という感じ。急ぎよ、明日からはいつも通り洋食とすることに決定した。コーヒーも濃すぎ。

部屋に戻ってから、会場へ。エレベーターでインド支部会長の Venkatesan 先生とばったり会い、やあやあ元気。Venkatesan さんはこれから朝食に行くところだが、間に合うのか? 会場の中国人民大学はホテルのすぐ向かい、歩いて数分のところ。(ところがそれは午前中の会場だけであった。)レジストレーションをすませて会場に入ると、日本人が端っこの方に固まって座っていて目に余る。なんでそんな端っこに、と見に行くとコンセントがそこにしかないのが全員で占拠していたよう。(その後、見栄えを考慮してか、たぶん人民大学の関係者の先生が、中央に移動しろとみんなに言ってまわり、全員中央に移されてしまう。)オープニングセレモニーの後、EAR-BC 恒例となった集合写真を撮る。「佐藤先生は前列の椅子に名前が書いてありましたが『Tosiya』が『Tosiga』になっていました」、と寒水さん。なーに、「Tosja」だったこともあるのでいちいち気にしてられない。韓国の Tae Rim Lee 先生や韓国支部会長の Taesung Park 先生にあいさつする。

集合写真の後はお茶の時間。といっても中国茶はなく甘いコーヒーと紅茶。なにやら怪しげなどうみてもアメリカンなスイーツを小型にしてもものがおいてあるが手がでない。キーノートセッションは聞き流し、今年の医療統計講義のレポートテーマを仕上げ、火曜の講義の準備にいそしむ。だいたい講義の準備が終わったところでお昼になった。昼食会場は学食のようなビルで、1階から3階までがレストラン(しかもすべて中華、あたりまえか)。1階がカフェテリア、2階が着席のカジュアル、3階はわりとよさそうなレストランで、3階には土曜なので家族連れがたくさん食事に来ている。われわれは3階のbuffetコーナー(家族連れの方たちはbuffetではなく、普通に料理を注文していた、けっこうおいしそう)、水菜のサラダ、ブロッコリー炒め、ピーナッツと鶏肉の炒め、なすと隠元の炒め、炒飯、コーンスープを取る。今朝、ホテルでは中国人が炒飯におかずをまぜて食べていたのをめざとくみつけ、そうしてみた

ころとても美味であった。コーンスープは甘くてバツ、ほかの料理はホテルのブッフェよりおいしく感じ、満足する。昼食休憩は2時まででまだ1時間以上もあるのと、午後の最初のセッションは聞く気がまったくないので、午後後半の日本の欠測のセッションに行くことにして、ホテルに戻って仕事、仕事。

欠測セッションの日本人集団もどこかにいきたい、コーヒーが飲みたいというので、昨日チェックしたデパート「当代商城」の1階にあったコーヒーショップを教え、わたしはホテルに戻る。メールをチェックして、返事を書いたりした後、学生に言っている以上少しは発表練習でもしとかなないと。練習、練習。ところが、全然口がまわらずわやだったので、本気になって練習していると午後後半のセッションがはじまる時間が近づき、しかも午後の会場は大学の端にあるのであわててでかける。ホテルから歩いて15分くらいかかり(寒水さんのホテルからは30分かかったとのこと)、ふつうこれくらい歩くのはなんともないのであるが、とてつもなく暑かったため、行かなければよかったと後悔する。が、会長の大橋先生もいらしていたので、わたしがサボっていたら大問題になるところであった。

欠測データの大御所で昨日のショートコースの講師だった、Rod Little 先生もきてくださって、セッションのはじまりはじまり。驚いたのは Little 先生がすべてのプレゼンに教育的かつ建設的なコメントをされたことで、わたしにはとてもまねできない。途中、機器のトラブルがあったものの、なんとかつつがなくセッションが終わり、あとはバンケット。バンケットの会場はわたしが泊まっている燕山(ヤンシャン)大酒店なので、みなでホテルに向かう。道々 Little 先生とよもやま話、テニスがお好きなようで夜通しウインブルドンをみているとのこと、セリーナ・ウィリアムスが負けたことをいたく残念がっておられた。

バンケット会場はホテル2階の中華レストラン、着席で10人のテーブルに大橋先生、司朗さん、医療統計院生の小谷さん、久留米の服部先生、久留米の大学院生 貞島さん、北大伊藤先生、Little 先生、オーストラリア支部の Allan Welsh 先生、IBS 中国支部会長の(なぜか)ワシントン大学 Andrew Zhou 先生、そしてわたし。ともかくビールだ、というので司朗さん以外はビールを頼む。青島がきたので、Little 先生に、青島はうまいビールなんだという、しってる。理由はしってるかと聞くと、それはしらないというので、青島はかつてドイツ領で、ドイツ撤退後ビール工場をそのまま使っているんだ、とうんちくをたれる。料理は得体のしれない前菜が次々と並べられていく。ひじきみみたいなもの、昆布の細切り味付けみみたいなもの、隠元(これはおいしい)、魚の干物みみたいなもの(辛い)。この後料理がどんどん出てきて驚く。スープは冬瓜、豚肉、とうもろこしなどが入った白湯でまあまあ。ぜんまいや山菜の炒め、これもおいしい。鳥肉の炒め、隠元と肉炒め、鶏の骨付き肉と木の子炒め、豆腐炒め、唐辛子と肉炒め、もう覚えきれないくらいの種類がでてきた。炒飯がきたので、例によっておかずをかけて混ぜて食べる。もうお腹いっぱい、しかし卓上には半分以上料理が余っていてもったいないお化けがあちこちに出ていた。どこかでこれが中国のもてなしだと聞いたことがあり(料理が残らないと、ホストがケチだと思われるらしい)、中国ではもったいないお化けも困るだろうな、と思ったとか思わなかったとか。

1 時間くらいでもう早く部屋に戻ってのんびりしたくてたまらなくなり、1 時間 20 分を過ぎるとみなさんぼちぼち帰りだしたので、われわれのテーブルも 7 時半にお開きに。部屋に戻ってシャワーを浴び、発表練習。英語をしゃべっているので、だんだん口がまわるようになってきた。(ような気がするだけ、だが。)

NHK をみたりローダンを読んだりしているうちに、11 時前に寝る。

7 日(日) 発表

7 時に目覚ましで起きて支度し、7 時半すぎに 1 階のレストランに。今日は洋食と決めていたはずなのに、今朝は昨日と違う中華も出ていて、中洋折衷。今朝のおかずはおいしく、おかわりしようかとも思ったが、今日も昼夜と中華なのでがまんする。8 時 40 分ごろ会場に向かう。最初のセッションは中国支部会長の Andrew Zhou (周、「チュウ」と読むらしい、でも英語ではゾウといていた)さんと大橋先生。周さんは経時データの欠測に関する IPW、大橋先生は日本の臨床試験の変遷をおもしろおかしく話していた。ティーブレイクで甘いコーヒーを飲んでいると小谷さんがきのうの集合写真をもらったと持ってきた。パノラマの立派な写真、わたしはちっとももらう気がない。次のセッションが始まる前に富金原さん、伊藤さんが会場を出ていきかけて、富金原さんわざわざもどってきて、わざわざわたしに「ちょっと出てきます」と断るので、わざわざ書いておく。

午前後半は難しい式が並ぶのでスルーして医療統計実習レポートをやっつける。最後の Little 先生の欠測データの講演はちゃんと聞いた、とっておこう。お昼は昨日とおなじレストランでサラダ以外は昨日とおなじメニュー。昨日とおなじピーナツと鶏肉のピリ辛炒め、なすと隠元のピリ辛炒め、炒飯、昨日とちょっと違うサラダを食べ、ここの中華はけっこう口に合う。と、司朗さんが寒水さんのところに来て地球の歩き方を貸してほしいといっている。どうやら紫禁城に行くようなのであるが、まさかわたしの発表を聞かないつもりじゃないだろうな、どうやらきかないつもりのようなのである。午後のセッションは 2 時からでまだ 1 時間もあるが、ホテルに戻るほどの時間はないので、レストランで寒水さん、小谷さん、服部さん、貞島さんと話す。服部さんによると EAR-BC に皆勤している日本人はわたしだけだといわれ、そうするとこれからも出続けないといけないのか。いつまでもここにいても仕方がないので会場に移動する。

会場は 3 カ所の平行、人がまばらで、しかもわたしと服部さん、日本の MSD の方の発表がおなじ部屋で、小谷さんだけがとなりの部屋。小谷さんの部屋にはお客がたくさんいてうらやましいが、小谷さん曰く日本人が一人もいないとのこと。まばらなお客さんでわれわれのセッションがはじまった。最初のスピーカーは抗がん剤 I 相試験の 3+3 と CRM のいいところを取り入れたデザインの話、わたしはシグナル検出に事前データを使って解析する話、服部さんはバイオマーカーのメタアナリシスの話。お客がすくないので気が乗らず、いい加減に話して終わり。質問も出ず、なんだかしまらないまま終了。

この後、例によって甘いコーヒーを飲み、時間をつぶした後に、次回の EAR-BC のための会合に寒水さん、大橋先生は午前で帰ってしまったので代理の服部さんと向かう。今回の

EAR-BC はレジストレーションが 120 人、実際の参加はもうちょっと少なかったよう。今回、会議日程や場所が決まるのが遅く、みなやきもきしており、インドからの参加者が 2 名だけだったのは日程が決まるのが遅かったからだと言われた Venkatesan さんに指摘されていた。次回 2015 年は順番から行くと日本の番、しかし大橋先生と「できたらシンガポールでやりたいね」と話していて、何人かに聞いたところみんなシンガポールには行きたいというのでそう提案してみることに。ただ、今回シンガポールからの参加者も 2 名だけで、しかも二人とも准教授なので決定権はない、とのことで、持ち帰って 9 月上旬までに返事するとのこと。

シンガポールが無理なら日本開催となり、日本なら無難なところで東京、東京は一回目にやったので九州か、というので服部さんにきてもらったのであるが、結論は先延ばしに。それにしても周さんはアメリカ人だからかやり手で、はじめての参加にも関わらず、いろんな提案をしたりとどんどん話をすすめてしまい、なんとなくこれまで仲良く日本・韓国・インド・中国でやってきた中で、反発されなければいいのだが。

今晚もバンケット、今日は人民大学統計学科主催とのことで、またまた燕山大酒店に。1 時間ほど間があるので、寒水さん、服部さんとわたしの部屋でだべりたり、メールを確認したり。そうこうするうちに 6 時となり会場へ。バンケット会場は昨日とおなじ 2 階のレストラン。今日は奥の間に通され、卓上にはすでに昨日よりも質の高そうな前菜が並んでいる。われわれのテーブルは、Venkatesan さん、周さん、謎の中国人、北京大学の人、Zhang 先生(前の IBS 中国グループの代表者)、服部さん、寒水さん、もうひとりいたような気もするが気のせいかもしれない。今日はもう元を残してもしょうがないのでビールを飲もうと 100 元もっていったものの、今日は全部統計学科持ちとのこと。まずはビールで乾杯。自己紹介のときに、Zhang 先生が日本で学位をとり、しかも指導教員が柳川先生だったと聞いて、わたしも服部さんもびっくり。世の中狭い。

その後、例によって次から次へと、牛肉の澄んだスープ、変わった豆腐と野菜の炒め(豆腐とは思わず、いかかあわびかと思った)、厚揚げと野菜の味噌炒め、長ねぎとなんかのコーゲンの細切りのガーリック味噌炒め(この長ねぎが絶品)、スナップエンドウと海老と帆立の炒め、えんどう豆と海鮮だか野菜だかの塩炒め、たけのこの細切りとなんだかわからん肉なのかなんかのピリ辛しょう油炒め(これもおいしかった)、炒飯、もっと出たはず、しかしなんだかわからないのと量が多いので憶えていない。ビールはグラスで 2 杯だけ、もっと飲みたかったものの向こう持ちだとなんとなく頼みにくくて困る。

そんなに大きくない皿から一口とって食べただけなのにお腹一杯になり、帰れま 10 の辛さが身に染みる。韓国のふたりが帰るといっているので、いろいろとヘルプしてくれた学生さんたちにお礼をいおうと提案し、一同でお礼する。もうちょっとビールを飲みたかったが、そろそろ潮時なので失礼して、と思ったら周さんが帰るといっているので、便乗して席を立つ。しかしまだ飲み足りないので、寒水さん、服部さんを誘ってホテルのバーにいき、得体のしれない赤ワインを頼む。150 元なのでそれなりなお味。服部さんのところの院生貞島さんも呼んで 4 人で話す。服部さんたちは明日の朝早いそうなので、ワインを 1 本空けて 9 時ごろ解散。レセプションで

明日の空港までのタクシーを予約、しかしおねえさんの対応がおぼつかないのではほんとにだ
いじょうぶだろうか。(こんな心配は杞憂だった。)

これでEAR-BCも終わり。部屋に戻ってシャワーを浴び、11時に寝る。明日も7時起きで、
ホテル出発は10時。

(実は明日はたいへんなことになるのであるが、公開版はここまでとする。)